

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こども発達支援 Co-Coテラス				公表日	令和 7 年 2 月 5 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・運動スペース、机上課題スペース、始まりの会の部屋とエリアが分かれているのが良い。 ・特に運動スペースは広いので十分だと思う。 ・荷物ロッカーの位置を入りに近いところに移動して、使いやすくなった。 ・余暇時間や集団遊びのエリアが保証されている。 		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に合わせて療育ができるように、1対1の療育をしていることで、対応が柔軟にできる。 ・コミュニケーションの力をつけるため、こども同士の関わりを大切にしているところも良いと思う。 		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・発達特性に合わせて、学習エリアが分かれているので集中しやすい環境になっている。 ・使いたい道具が選びやすいように視覚情報が適切に提供される環境になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習机とイスが、学齢期の児童全員の高さに適応しないケースがある。高さが調節できれば良いが。 ・トイレや手洗い場が大人サイズでステップや補助具があるが幼児は使いにくい。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日清掃を行い、清潔な環境で過ごせている。 ・設備の不具合にも、迅速な対応ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段できないところの清掃を計画的に行えるよう計画すると良い。 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・多児の声が気になる児には、個別のスペースが使えるようにしたり、集中できるエリアを提供できるよう工夫されていると思う。 		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の打ち合わせで情報共有と対策を確認できている。午後出勤の職員には、記録の掲示で共通理解が図れるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間により参画しにくい職員がいるので、さらにより共通理解を深めるための工夫が必要だと思う。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け自己評価以外に、日々の活動報告を丁寧にお知らせすることで、家庭での様子をリターンしていただくことができています。 ・面談などで得られた保護者の意向等について、職員で共有することが出来ている。 ・職員のグループLINEにより、直近の情報提供ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の番協会など、あれば良いと思う。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・どの立場であっても、個々に意見を出していく場がある。 ・定期的に面談があり、職員の意見や思いを伝えることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有する機会がもう少し必要である。 	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	<ul style="list-style-type: none"> ・職員評価や保護者評価を行い業務改善につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者による外部評価は行ってない。今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・改まった研修だけでなく、日々の指導が研修になっていると感じる。 	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに「支援プログラム」が公表されている。 	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援について、午前中の療育終了後ふり返りができている。 ・午後の放課後デイサービスでは、午後の勤務者の中で、記録を書きながら児童の課題を共有できている。 ・一人ひとりの課題準備をする中で、利用児の発達段階と課題の進捗を確認することができている。 	
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・AIセラピストComiiによるアセスメントを通して、個々の発達チェックができ、結果表により児の特性の理解ができていと思う。 	
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・一人一冊のファイルに計画や記録を集約することで、いつでも計画と現状が確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成された支援計画の目標を確認するが、課題以外の内容や生活等について、もう少し丁寧な確認や情報共有ができれば良いと思う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・情緒の安定や排泄・自立等について、細かな観察や記録の継続分析ができ、計画の見直しにつながればと思う。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・適切な支援計画が立てられていると思う。 ・日々の支援の中で、短期目標の達成状況や具体的支援の方法が提案されていると思う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・固定されたチームはないが、日々相談しながら支援内容の修正やプログラムの更新がしやすい環境にある。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	○		・一人ひとりに合った療育内容を提供できていると思う。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・勤務開始時間の都合で、朝の打ち合わせには参加できないため、会議記録にて確認している。 ・支援記録用紙に全会の記録が書いてあるのでわかりやすい。	・支援結果の（+）（-）の評価基準の共通理解を進める必要がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・午前中の療育については、ふり返りの時間が確保できている。 ・午後の放課後デイの支援については、特筆すべき内容を共有できるようにしている。	放課後デイサービスの振り返りの記録を残していく方法を検討する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・当日の支援記録と、HAGシステムにより写真付きで、保護者に配信している。 ・1か月毎にまとめてプリントアウトし、いつでも確認できる。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・6か月毎のモニタリングを行っている。 必要に応じて、随時面談も行っている。	
	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○			
25	【放デイのみ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・チャレンジ課題を自分で選べるようにしている。課題の種類と共に量も自己決定できるようにして、児にとっては、達成感が味わえるプログラムになっていると思う。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・近隣に交流できる施設がないので、普段の交流は難しいが、夏休みなどの長期休業中には機会が持てる時があると思う。	・保護者の意向も聞きながら進めていく必要がある。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	32	【児童事業所・児童センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	33	【児童事業所・児童センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	34	【児童センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【児童センターのみ】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
36	【児童センターのみ】（自立支援）協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○				

	38	【放デイのみ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	39	【放デイのみ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	40	【放デイのみ】（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
保護者への説明等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			丁寧に対応している。
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			親身になって対応している。
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			迅速に対応している。
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNSを活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			ホームページやインスタグラムなどきちんと発信している。
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
	51	【放デイのみ】家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> 策定したマニュアルが、より実効性の高い物になるようにしていく。 研修の中で、共通理解と実践力を高めていく。
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			該当無し。
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				